

止戈樞要

盛甲

六

農商務省
書
號六六九二第
冊九四一共

和書印

大政官文庫

			和書門
		二四七一	
六冊架	函	號	門

五函架	二四七一	和書
六冊架	六六九二	號類

內閣文庫	
番號	和 11471
冊數	6 (5)
函號	154 29



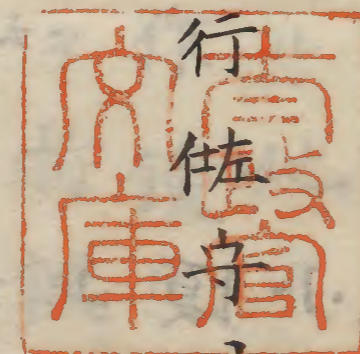
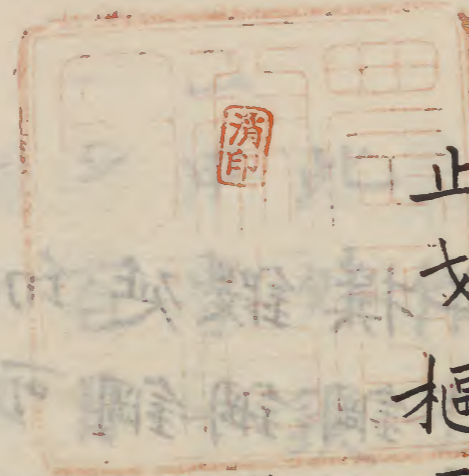
止戈樞要

止戈樞要 甲製式卷六

從位

行佐

丹滄人増業著



一鉄ヲ鍛錬スルニ枉目板目ノ鍛方
 アリ枉目ハ割レヤスク板目ハス
 ケ易シ是以甲胃ニハ此ニツ共嫌
 フナリ只鍔性ノ剛ト柔トノ間ヲ
 以テ能熟合タル積鍔ヲ要トス如

丸

一熟鉄ト鋼ヲ合セテ鍛フニ鉄三百

五十目ニ鋼百目ヲ合ス大澹ナリ

一鋼ノ俗稱邑知鋼千州鋼六栗鋼

出羽鋼ト云水折鋼

印可鋼ト伯者鋼

延鋼 山延鋼

鍛鋼 頃物鋼

撰鋼 小間鋼

地小間鋼

作子鋼

此外鉄ノ出ル地アリ

一甲曹一領ノ作鉄凡五貫目ナリ

一シ百目ノ鉄ヲ折鍛レハ三十目

ナル故五貫目ノ鉄ヲ折返シ鍛ハ

一貫五百目ト成大概鍛アケノ小

板厚ナシ七厘又ハ三厘ニモ制ス

一古鉄ヲ以テ鋼ノ代ニ用ユルニハ

燧身ノ刀ヲ百目ニ古鉄二百目ヲ

合セ用ユ

一熟鍊 = 代用ユル古鍊ハ古鉄又木
引ノ大鋸ノ久シク用テ不用 = 成
タルヲ又先ノ鋼ヲ去リ折返鍛テ
用ユ極上ノ鉄性ナリ折返ス事五
六返 = 不可過也折返シ過レハ返
鉄ノ性ヲ失フ
一甲冑ノ鍛鍊ノ法則古人ノ諸説ヲ
一聞或著述セル書ヲ是レ氏不巨細
タマ々々函人ニ尋聞ト雖モ名其
傳説甚アラシ一車ハ得事アリテ

萬変 = 不渡是故 = 書シ残ス = 不
至十リ予數歳其蘊奥ヲ得ト志ト
イヘ氏更 = 其肯ヲ深ク知ル人十
シ爰 = 刀剣ノ鍛治七十有餘歳ノ
老人水心子正秀 = 他日逢テ鍊山
ノ仕方鉄ノ剛柔ヲ論スル所 = 彼
カ數年刀剣ノ鍛鍊 = 厚ク精心ヲ
ツリシテ博ク其道ヲ尋求クル鍛
治ノ則又鍊ノ剛強柔弱ノ論一ト
シテ懇 = シテ篤シ正秀云鍊 = 善

悪ナシ鍛治ノ精疎ノ練不練ニヨ
ツテ鉄ヲコナシ用ユルノ汰ヲ不
知ト知ルトノ二ツノ所ナリ皆已
カ志ノ末熟ヨリ發起スル処ニシ
テ更ニ鉄ノ善悪ヲ論スル処ニア
ラス鉄ハ本皆善ナリ又鋼ハ早ク
錆ヤスリ熟鉄ハ鋼ニ比レハ錆ノ
出ル遅シ此ヲ炮リ米ト不炮米
ノ湿気ヲ請ルト不請トノ次第ア
ルニ譬フ此論説實ニ可謂明論也

次ノ日水心子刀剣鍛錬ノ巨細ノ
良法ヲ書記シテ予ニ贈之其旨最
深切ナリ剛鉄ヲ製煉スル法具ニ
備レリ實ニ刀剣ノ用ノミニアラ
ズ甲冑ヲ鍛フニモ其徳用莫大ナ
リ古今鋼花鉄ヲ製スル異ル論
又古今鉄性異ル其鋼録卸方ノ傳
鋼鍛方鉄延方其巨細ノ論説委ク
可感
一明ノ俞竜徳刀薄鉄鍛ノ法アリ可

一南蠻ノ傳ニ鍊ヲ鎔化セズ鋼ト為
 スノ法アレ凡未其法ノ如ク成ヤ
 否ヲ不試故不記惣テ如此珍説ヲ
 用ユルヨリ我邦ニ鋼モ鍊モ出シ
 ハ水心子力數年ノ鍛煉ヲ以製衣之
 シテ事ヲ缺ク事不可有ナリ
 一延喜兵庫式曰挂甲一領札八百枚
 長切百九十二日中切二百二十日
 短切二百五日五當作六十六日當結令曰凡計切程者四月五月六

月七月為長切二月三月八月九月為中切十月十一月十二月
為短切云
 打札二十日鹿磨四十日穿孔二十
 日錯穴并裁札四十五日錯稜十三
 日砥磨青砥磨并瑩四十日堂當作塗横
 縫并連七日縫須牒并継著二日著
 縁一日擘拘并裁韋四日擘縮有手
 力下同
 中切日打札二十三日鹿磨四十六
 日穿孔二十三日錯穴裁札五十二
 日錯稜十五日砥磨青砥磨并瑩四

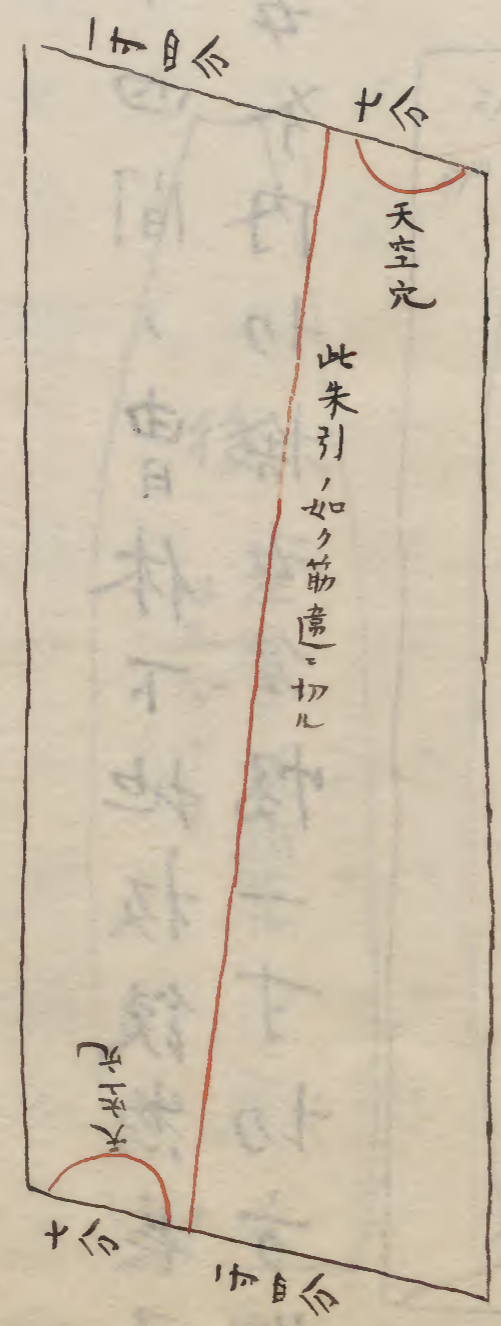
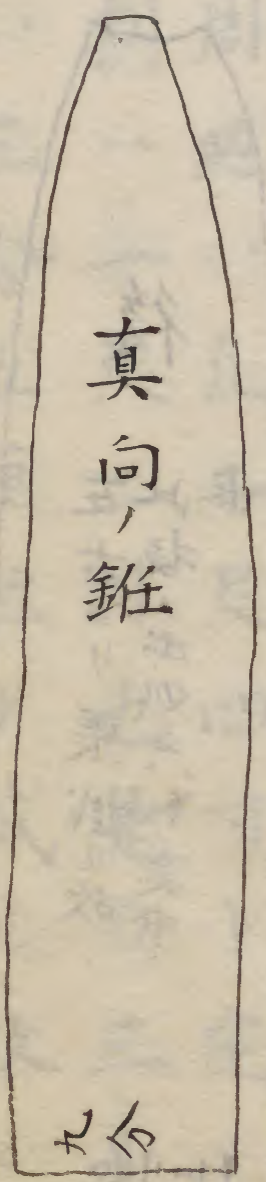
十六日 横縫并連 八日 経頸牒并縫
 著二日 著録一日 擘拘并裁 韋四日
 短功日 打札二十七日 鹿磨五十六
 日 穿孔二十八日 錯穴裁札六十三
 日 錯稜十八日 砥磨青砥磨并瑩五
 十六日 横縫并連 九日 経頸牒并縫
 著二日 著録一日 擘拘并裁
 韋五日
 修理 挂甲一領 料漆四合 金漆七勺
 六 掇鉏池二尺五寸 鉏絲三 銖絲五

銖調綿一化 六兩 高布一丈三尺 洗
 草四張 半掃墨一合 馬草一張 半録
 絲一兩 三銖 單功四十一人
草切ハ中切短
功ニシテ成ス

ヘキモノ有ト虽厄皆長カラ以テ
一人ニシテ成スヘキ工程ヲ云ヤ

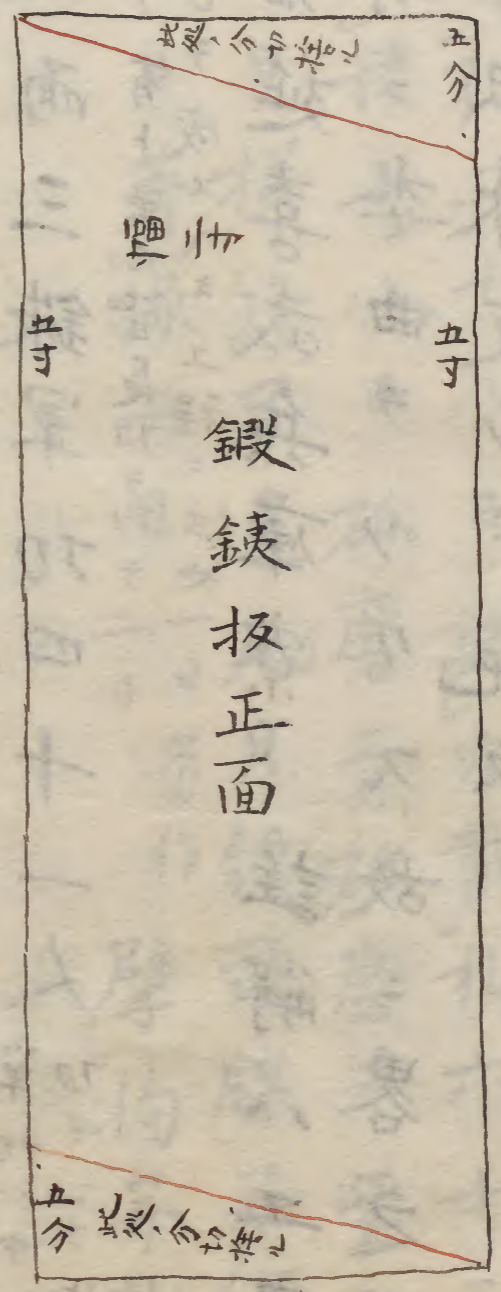
右 延喜式 兵庫寮ノ 註解ハ 工事
 解ニ 委曲ヲ ツリス 故ニ 畧之シ

一 曹ノ 銖ハ 地鉄ヲ 鍛ヒ 厚カ 三厘位
 二 亦ナラシテ 漏ノ 如キ 板鉄ニ 亦
 延ス



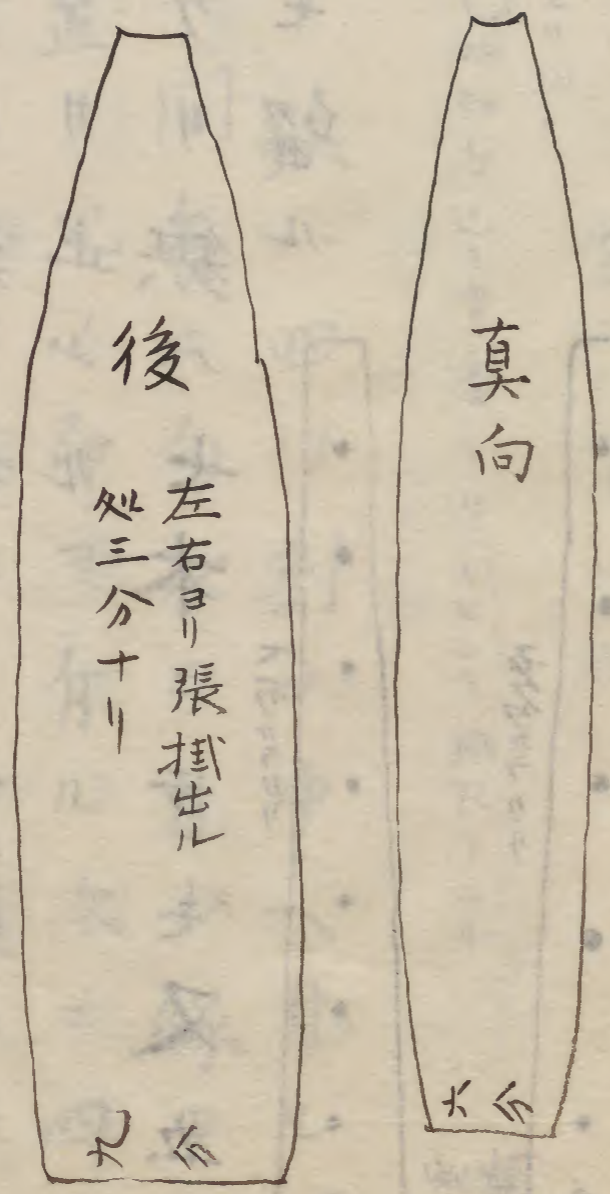
故ニ三十二間ノ鉢ノ鍛板鍍十六
 枚アリ

右ノ鍍板上下ヲ切拾ニ次ニ丸ノ
 如朱引筋違ニ切レハ二枚ト成ル

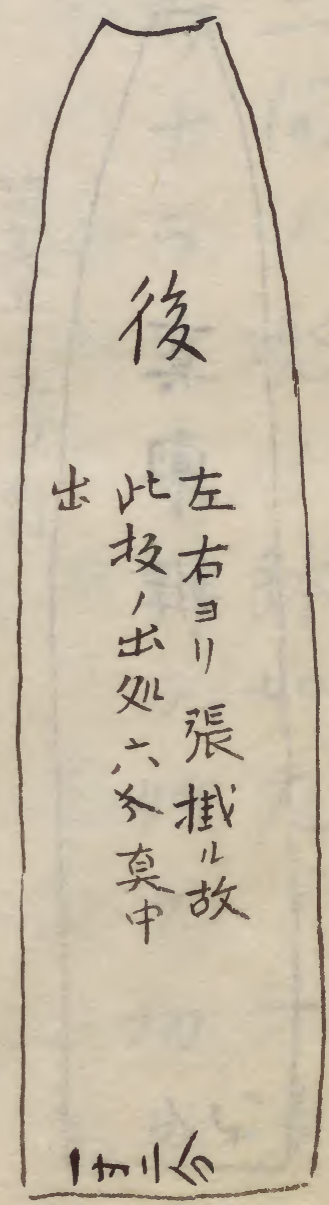
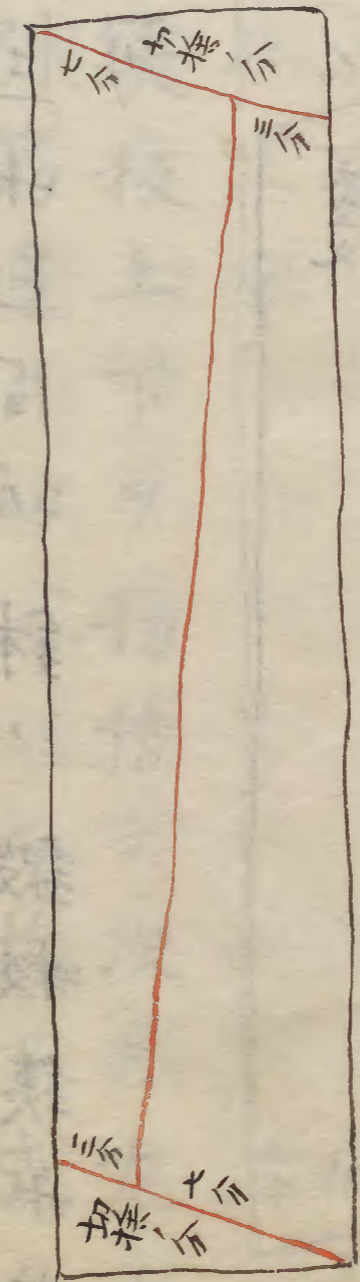


一三十二間ノ塊ノ鉢ノ寸法
 鍍ヲ打十ヲシ朱引ノ如ク切リ捨
 ル

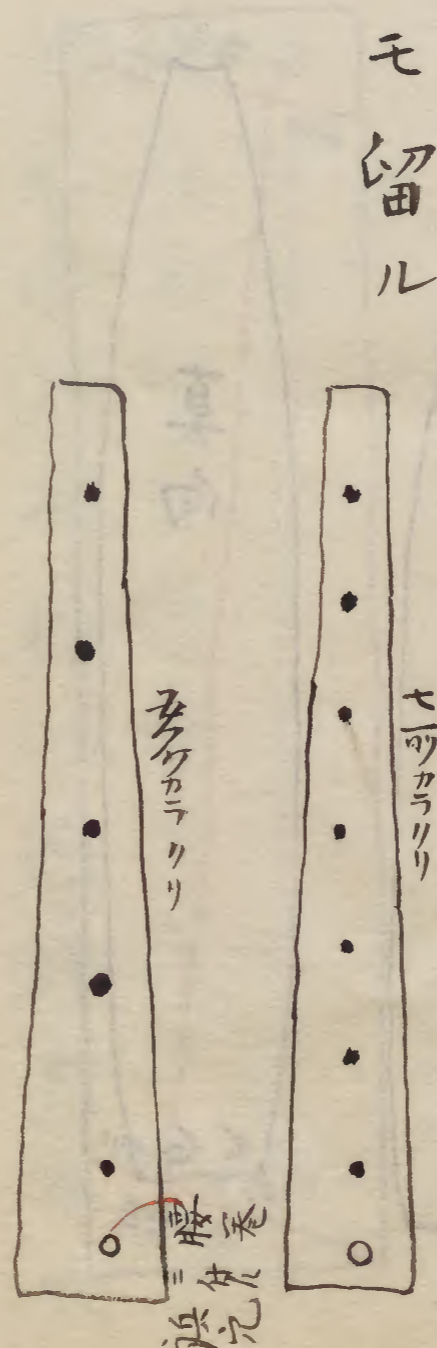
一 曹ノ周廻ハ凡二尺四寸ト定メ二
 ツニ割ハ一尺二寸也是ヲ三十一
 二 割ハ三分五厘位ト成ル故ニ重



一 六十四間ノ由目体下地板饒惣長五
 九 寸五分内切捨五分幅一寸切方如



ハ三分宛位ノ割ニスベシ
 一曹ノ筋ハ重ナル処ヲ捻リ返ス
 一曹ノ腰巻ハ幅一寸ヨリ一寸五分
 迄前ヨリ廻シ前ニテ丸合セニシ
 カラクリ止ムル
 一カラクリ 鑢ハ七本ニテモ又五本
 ニテモ留ル

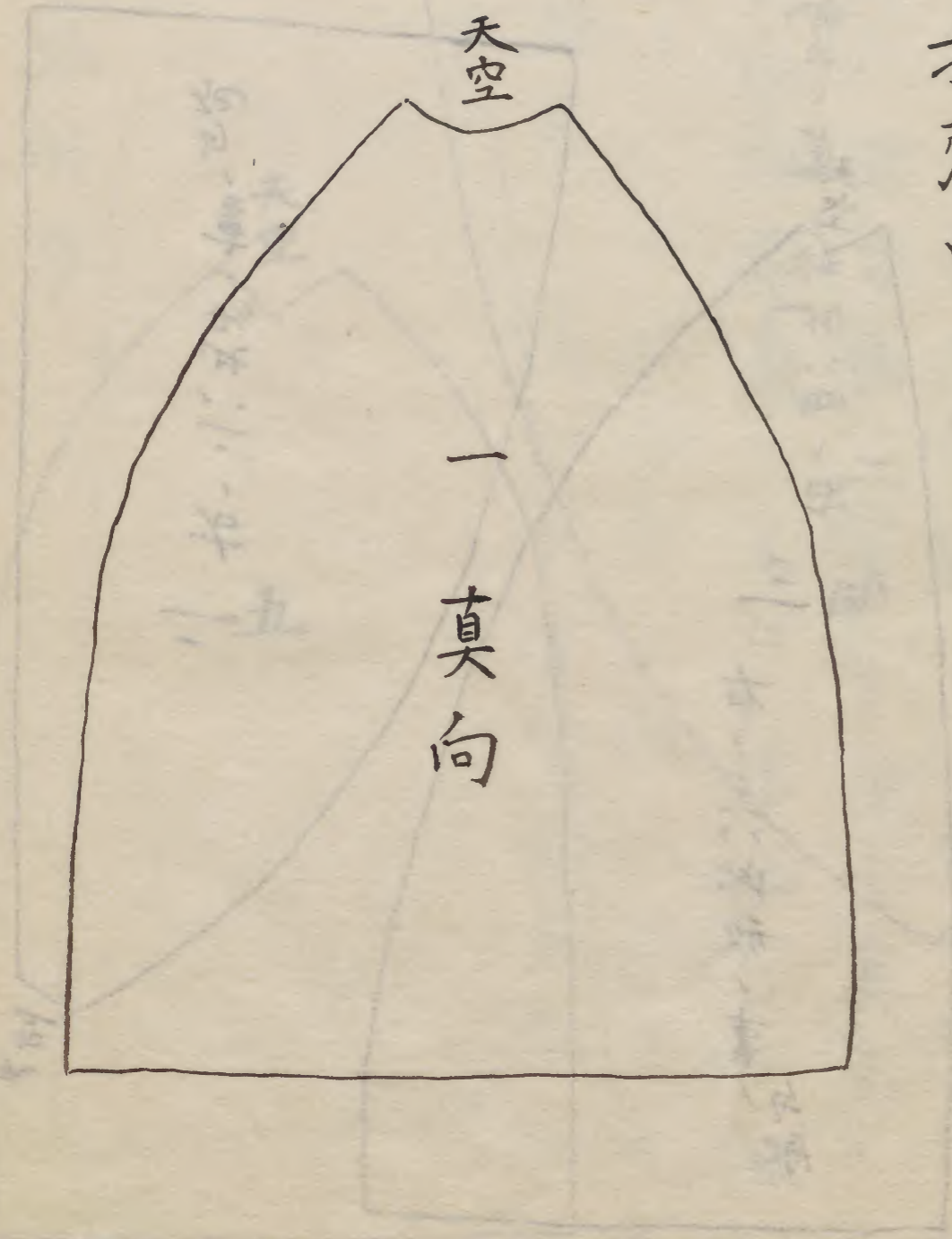


一カラクリ 鑢ノ圖

表スリ切リ
 此知打ヒミ曹表ヲタキヒシキ鑢トナル

一四天ノ鑢ハ四ツ割ノ中へ付ル
 一曹ノ一間毎ニ句配ヲ付小縁ヲ引
 返シ置テ穴ノ即ヲ付ル次ニ四方
 ノ隅ノ句配ヲ是ルニ力鑢ニテ挟
 ミ見ル也次ニ右ノ裏穴ヲ明ル惣
 躰ヤスリニテスリ最其時ハ曹ノ
 形ノ物へ押當テヤスリヲ懸ル也

一八 枚張曹

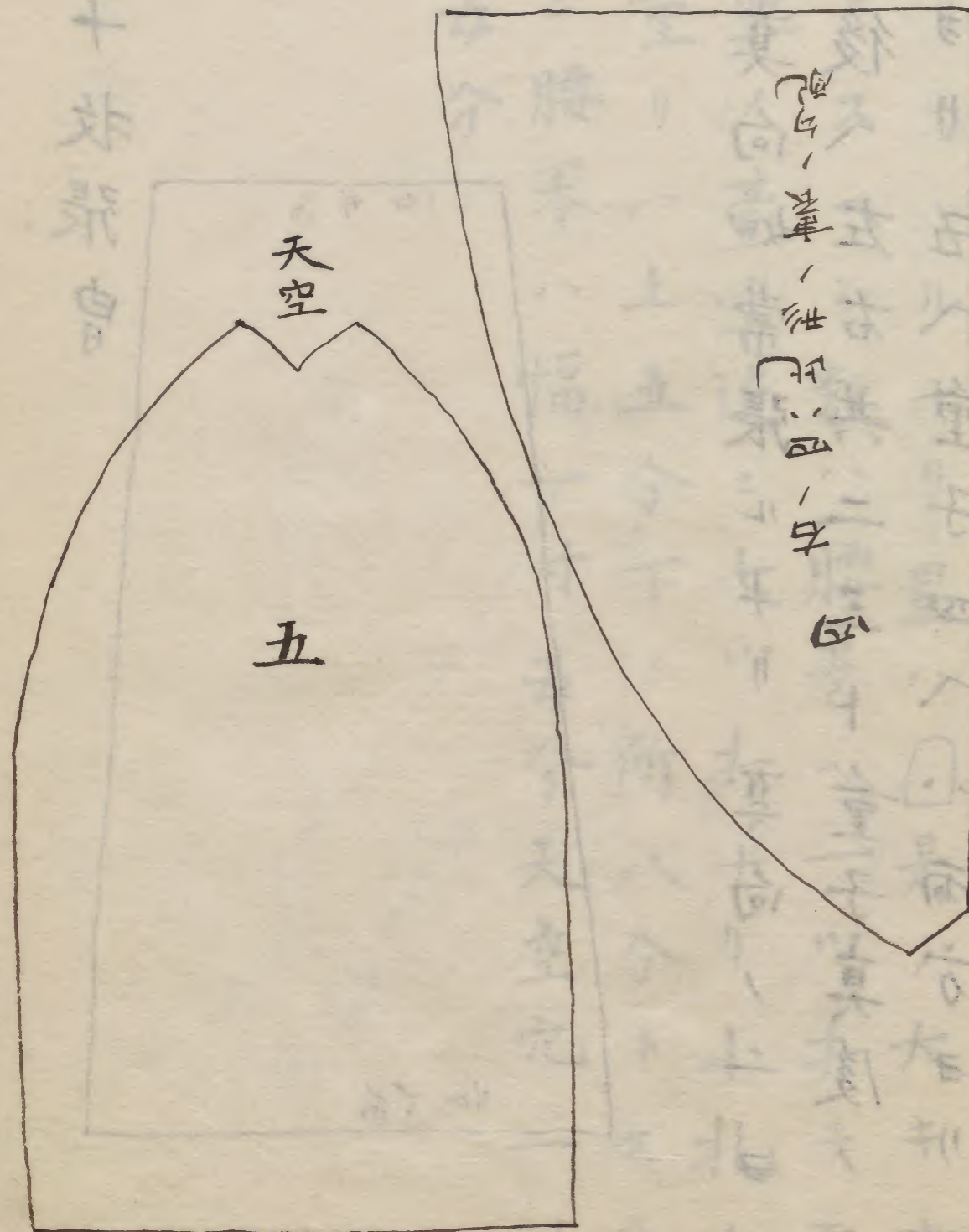


次ニカラクリ上ル其後目ノ細キ
 ヤスリニテ油ニ付テヤスリヲツ
 カフ
 一曹ノ星ハ鉄ヲ星ニスル位ノ丸
 ニ長ク拵ヘ一ツ宛スリ切り曹ニ
 拵ヲ裏ニテカラクリ止ル
 一四

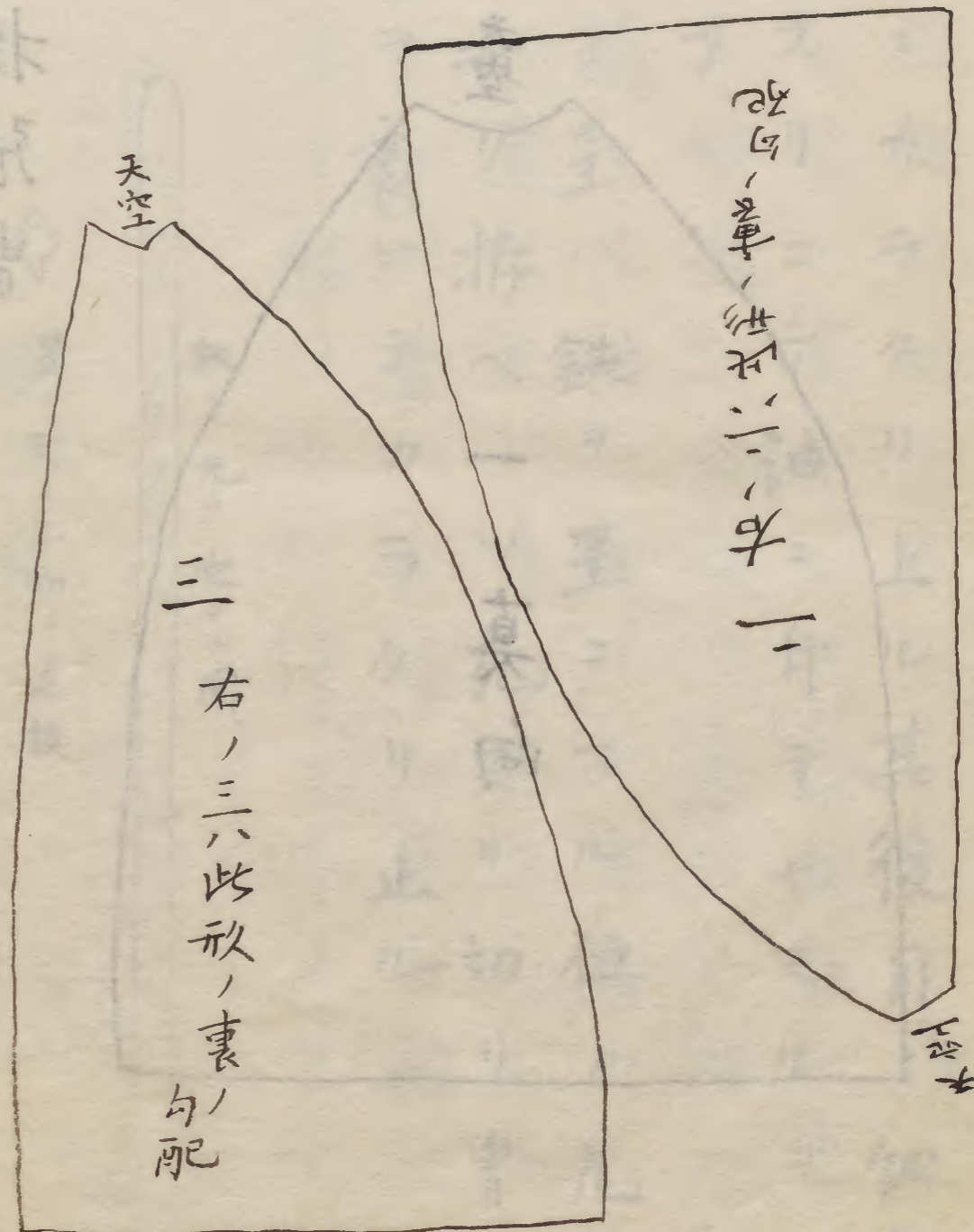
鉄ヲ丸ク迎タル圖

星ノ形ニシカリタル鉄

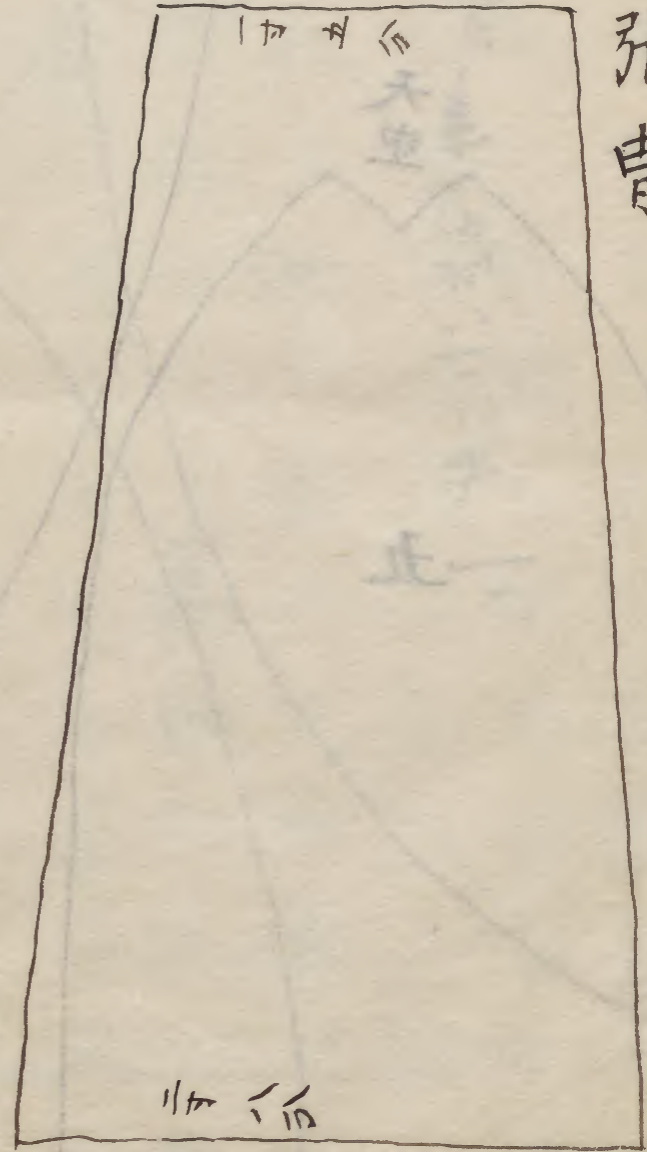
一十外聚白



一八外聚白



一十枚張巾

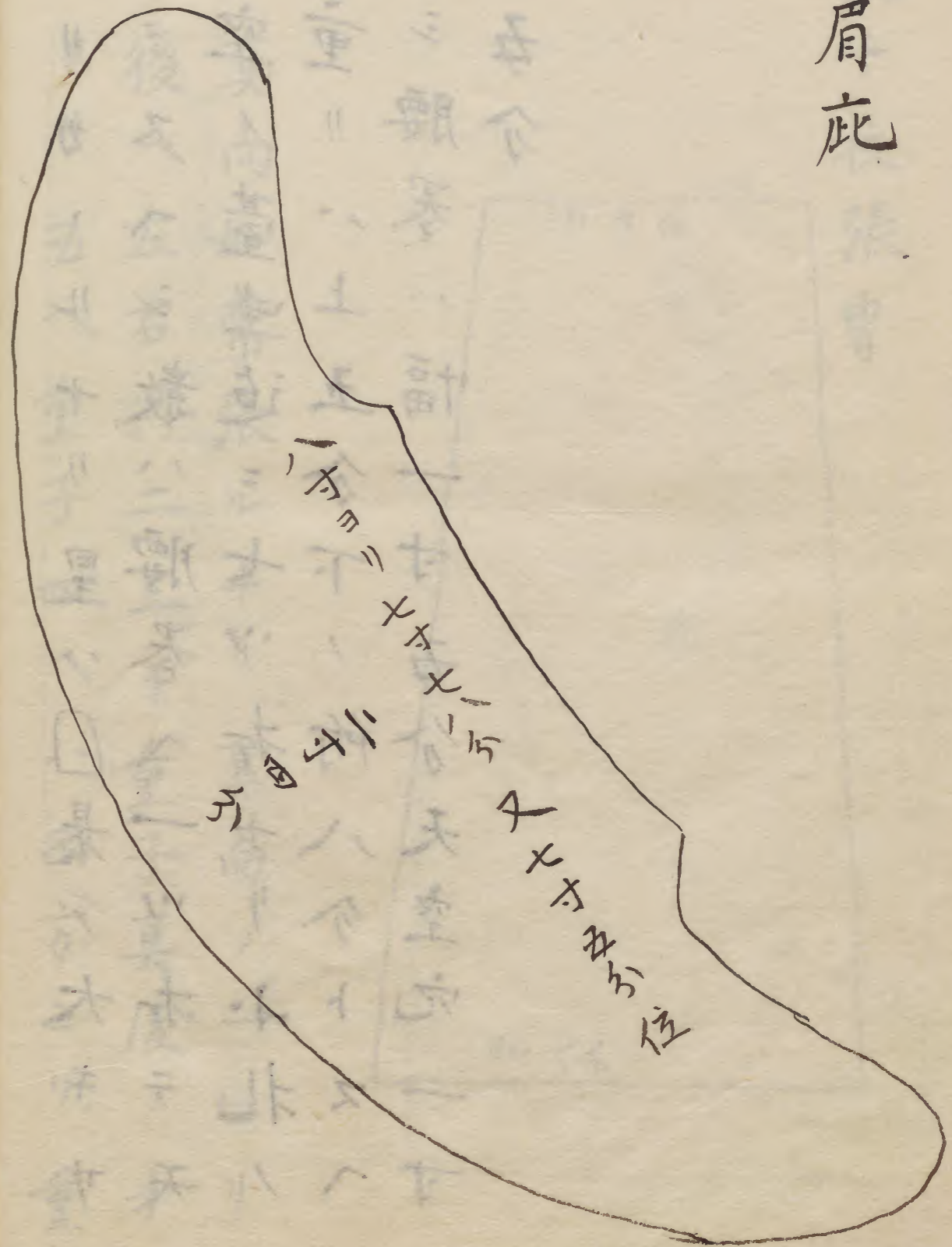


真向如常張ル十リ真向ノ一ヨリ
 後へ左右共二三ト童子真後ノ十
 ヨリ五へ童子四へハ両方ヨリ童

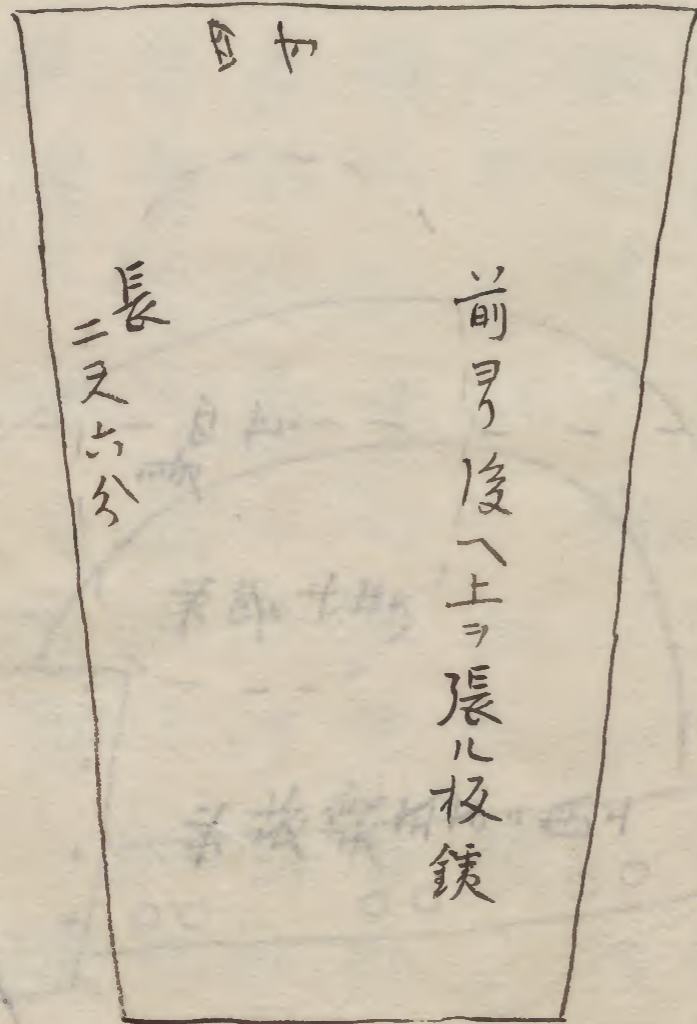
リカ、ル十リ星ハ〇是ノ大キサ
 スへシ敷ハ腰巻へ一ツホテ天
 空ノ臺坐迫ニ七ツホ十リ小札ノ
 重リハ上五分下ノ所八分トスへ
 シ腰巻ハ幅一寸五分天空穴一寸
 五分

一貫文

一眉庇



一四枚張、雜賀鉢



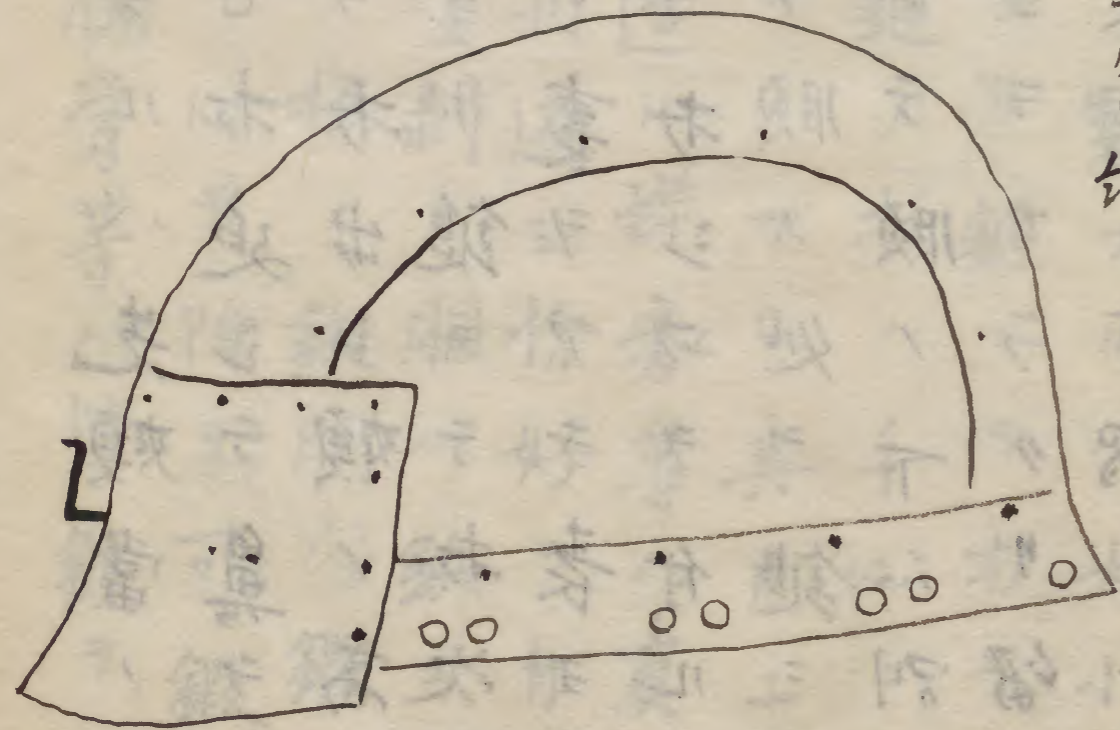
巾

長
二又六分

前弓後へ上ラ張ル板鏡

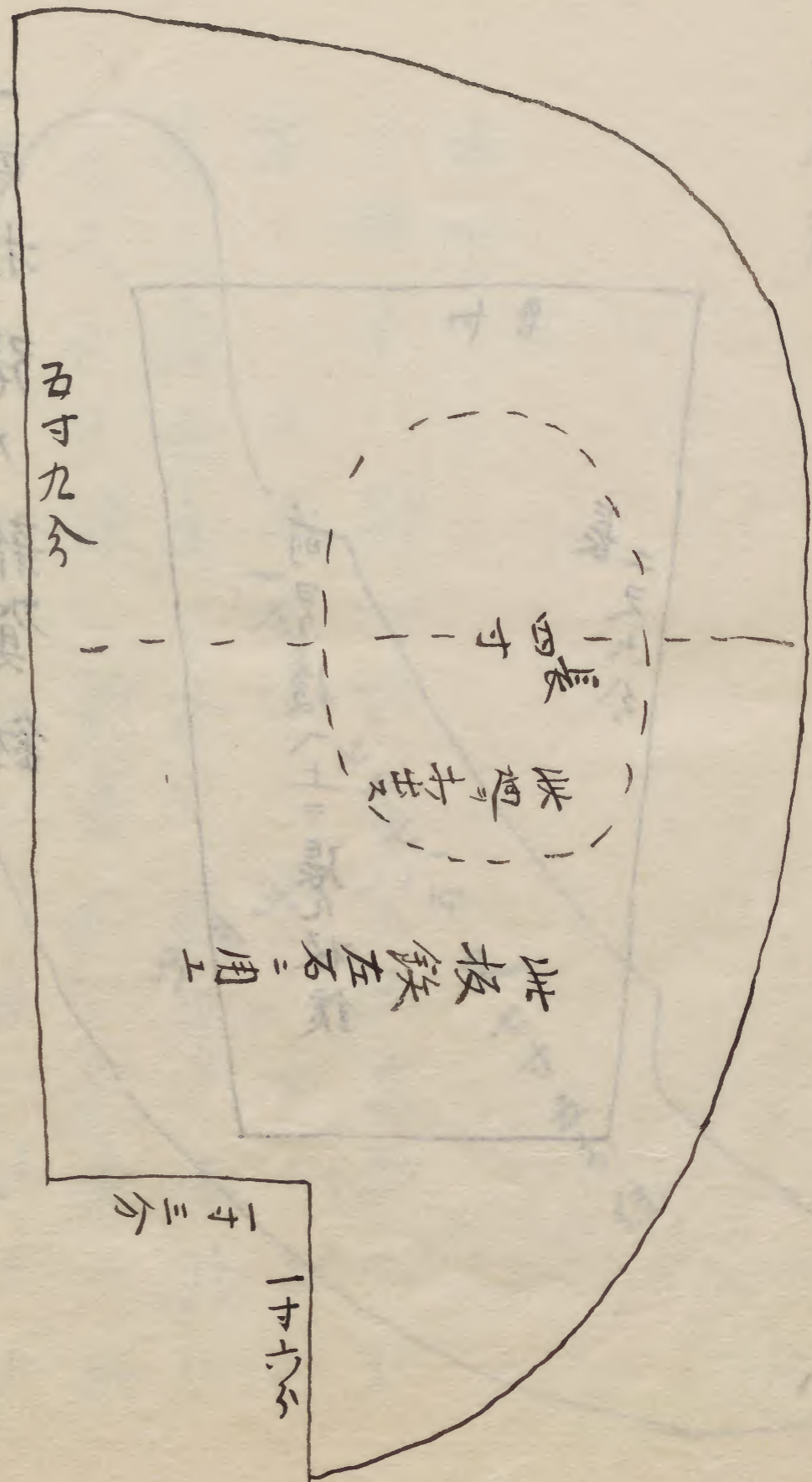
巾

巾



一期 雑賀鉢カラリリ終リ
タル図

一 尤右ノ服同シ



五寸九分

長四寸

長四寸

長四寸

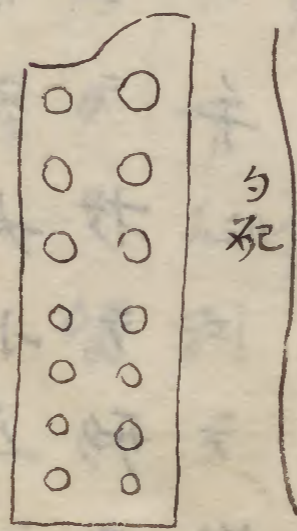
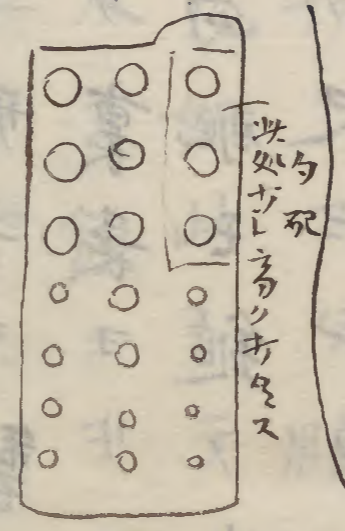
一寸四分

一寸四分

一類當ヲ製スルハ先類當ノ大キサ
 = 鍔ヲ鍛ヒホ延シテ鼻ヲホ出シ
 次 = 小鼻ヲホ出シ類ノ高キ処ヲ
 ホ出シ裏ヨリ鍔ニテホ次ヲ先ノ形
 ヲ付鳥口ニ裏ヲアテ表ヨリ先ノ形
 細キ鍔ニテホシワヲ付ル口ノ所
 ヲ切リアケ願ノ処ヲ鍔ニテホ出
 ス凡如此シテ願ノ下ハ別ニ板鍔
 ヲ入テ鍔ニテカラク留ルナリ
 其上ヲヤスリニテ摺リテ平ニス

一胴ノ形ナラ製スルハ大小ノ差別
 ナク裏表ヨリ鍔ニテホテ形ヲ造
 リ勾配モ鍔ノホノ手心ニテ我カ
 心ノ尺ニシタガビ其用ユル所ノ
 カタチヲ造ル蝶番等ハ真鍔ヲ入
 テ鍔ニテ折返シ恰好ヲ付鉄釘ニ
 テ付留ル豎剥ノ胴ハ鍔ニテカラ
 クリ留ル一枚ノ鉄胴ハ鍛ニテ村ア
 ルモノナリ心ヲ附テ可鍛ナリ
 一筆手佩楯膺等ハ皆鍔ヲ其ムキ

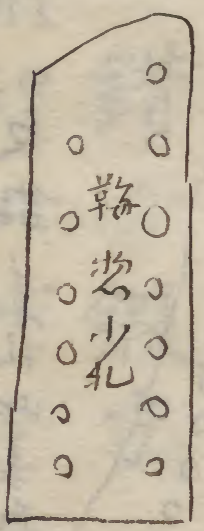
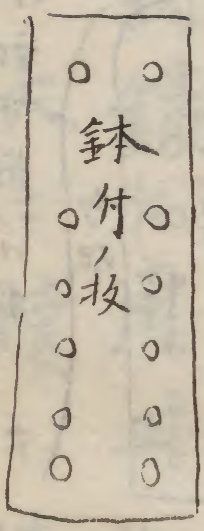
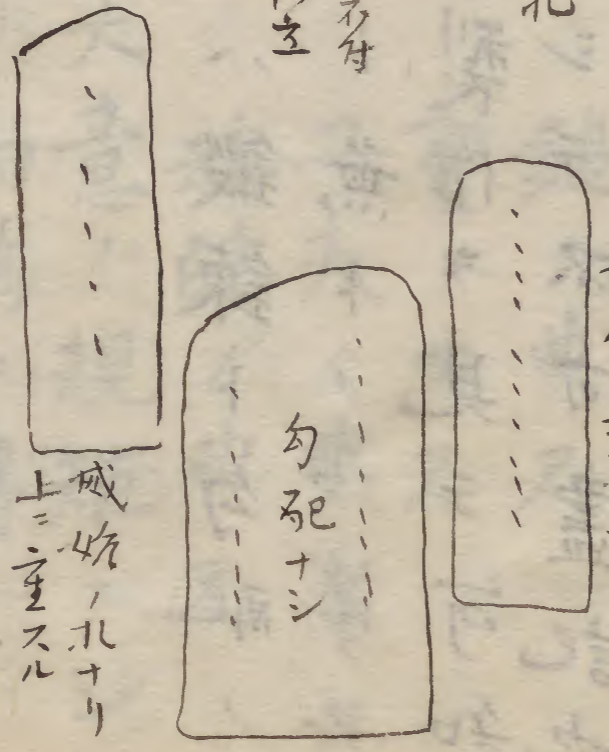
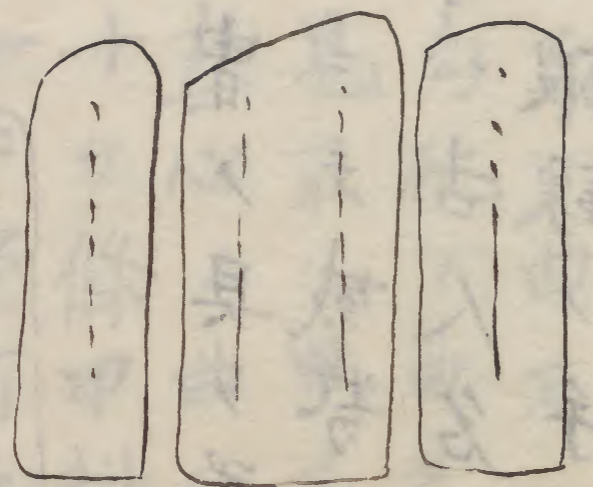
ムキニホ延シ勾配恰好ヲ鑑ニテ
 表裏ヨリホテ付ル鏝鋸ノ穴又威
 孔高鈕相曳等ノ孔ハ皆目通シノ
 タカ子ニテホ貫キヤ又リヲ以テ
 携リホシスヘシ
 一札ノ切形



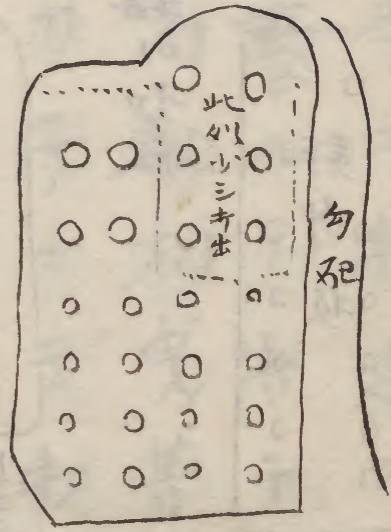
大札ナリ胴下放袖ナ植ニ用

大札ナリ鞆ニ用テ形ナリ

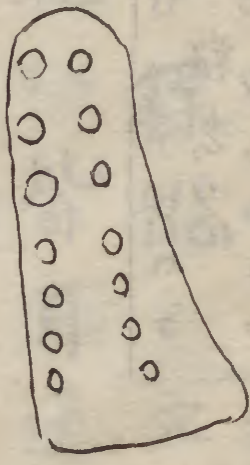
又鞆ノ切形



又胴袖下散ノ小札



又鞆ノ小札此未瓜形也ニ用ニ



一甲冑ノ具ノ善惡ハ鍛錬ト勾配ノ
恰ニテ威勢アルト無トノ次第共
昔ハ古人名工ノ製作ヲ見テ可知
皆鍛錬ノ手心ニシテ不可盡記也
依テ大昔傳説ニヨリ示之如左

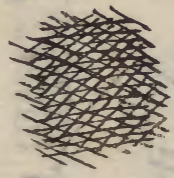
心ノ曲尺 眼ノ曲尺
手ノ曲尺 鉗ノ曲尺
一 勾配ノ曲尺 要ノ曲尺
見取ノ曲尺 工夫ノ曲尺
三 五心ノ曲尺 魂魄ノ曲尺
右十ヶ條甲製衣ノ大意ノ規矩ニシ
テ一モ不可缺十リ尚為口傳
諸鑊ニ用ユル錯ノ鍛方
一 鋼ヲ大ニ煖キ能程ニ少シ平ニテ

ヒラメテ少し焼テ水ノ中ニ入ル
 十リ此ヲ氷折ト云次ニ鋼ヲ大凡
 二七碎キ其鋼ヲテコノ先ニセ
 泥土ヲ塗リ火ノ中へ入レ鎔ニシ
 鎖ノ上ニテ錘ニテタタキ附ルまで
 三度位スレバ鋼子バリ附十リ
 一鋼能ク附合ハ直ニ向ノ方へ折返
 ス然レ向ニハ不限手前ノ方へナ
 リトモ手順次第真鉄ノ中へ包ム



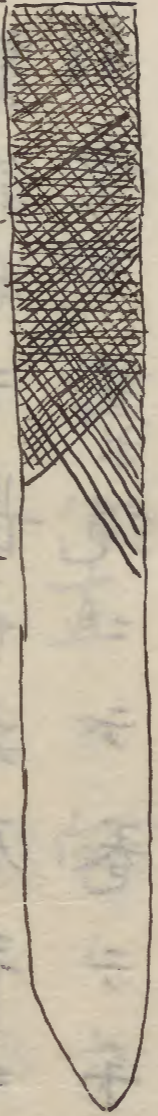
一真鉄ヲ中ニシ折返シ又火ノ中へ
 入鎔シ鍛ヒ打事三四返ニテ折返
 シ日能ク附ルナリ折返シメ能ク
 附合ハハ直ニ錯子ノ恰好次第ニ
 握
 前ノ方ヲ藁繩ニテ巻テ手ニテ握
 ル様ニス太サハ大方六七分位ノ
 差渡シニシ八角ニシテ角々ヲ夕
 ヲシ置ク
 云熟鉄ニテ長サ二尺斗ニ延テ手
 様ニ返スヘシ真鉄トハテコ鉄ヲ
 云熟鉄ニテ長サ二尺斗ニ延テ手

作ル其時ハ右ノ鍍ヲ又火ノ中へ
 入能程ニ焼テ段々ト持ルナリ
 一錯子ノ恰好出來上リセニテ削
 リ錯子ニテ摺リ上ケ目ヲ切ルヤ
 又ハセン削斗ニテモヨシ目ノ立
 方如圖



如此三度目ヲ立ル也

最モ遣所ノ大小ニシタカヒ目ノ
 大小アリ先ハ細ク切ルヘシ横

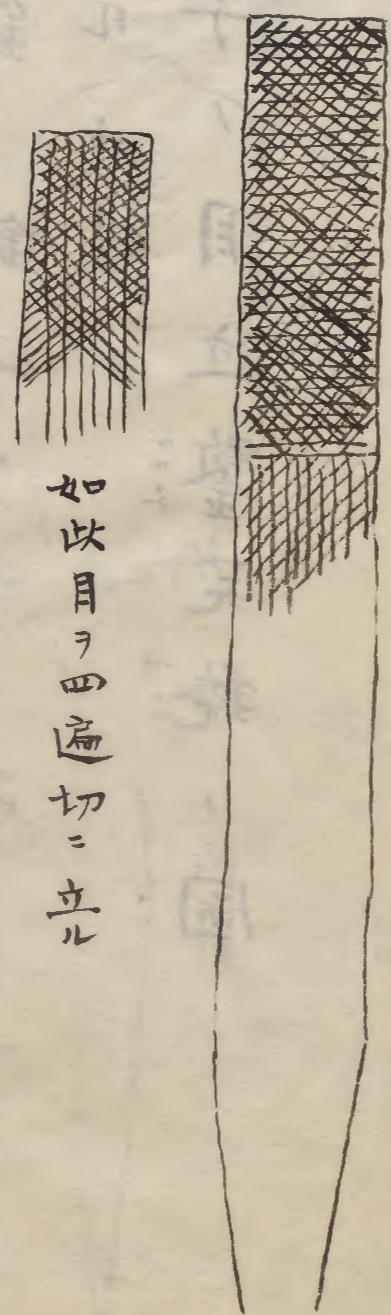


一筋ノ能ク通ルヲ良トス
 一月ヲ立終レハ藥ヲ塗リ火ノ中へ
 入焼テ水ノ中へ入ルナリ是ヲ燒
 上ト云火ノ加減ニヨリテ喜惡ア
 レハ此処大事ナリ不能書記
 一燒上ケノ時用ユル藥ヲ錯子味噌
 ト云此藥ハ鉄ノハゼル為ニ附ル
 硝石生味噌各等
 右三品雷盆ニテ摺合セ直ニ用ユ

一 燒上ルハ砂ヲ拭水ヲ附藁ノタ
 シニテコスレハ燒上ノ鉄ハタト
 レテ光リ出ル也砂摺リ終ハ遠火
 ニテ干乾シ洗ヒ水氣ヲ去ルヘシ
 一 炭ノ尾錯子惣テ細キ錯子ハ真鉄
 十リ造ル
 一 目中心錯子造刀 刀股差ノ中心又真鍮銅ニ
用ユル錯子ナリ
 一 鋼ヲテコ鍍ニ戴セガル前ニ先鋼
 ヲ鎔シ二三遍折返シ鍊ルヘシ次

一 鋼ヲテコ鉄ノ先エノセ鎔シテ
 能ク附長ク延ル也最モテコ鉄工
 付テ後ハ折返スヘカラス勿論片
 又ノ錯子ニ成ナリ
 一 長ク能程ニ処ニ直ニ取ヲ造ル片
 面ハ鋼片面ハ熟鍍ニテスル事也
 両面ノ錯子ハ多ク用ユル下ナシ
 若シ両面ノ錯子ヲ造ルニハ鉄物
 錯子ノ通り長ク延ヘガル前ニ折
 返シ鎔シ附テ長ク延ヘ取ヲ造レ

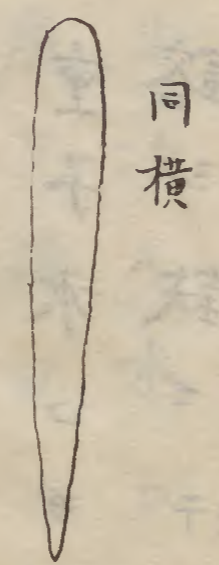
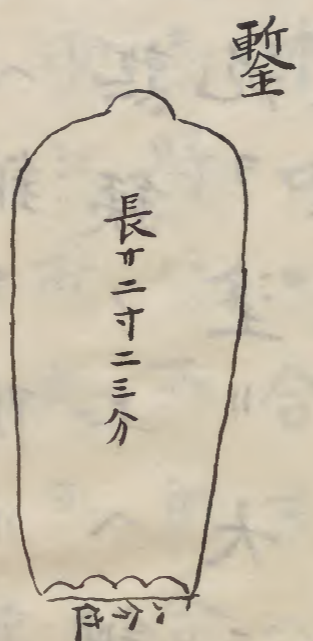
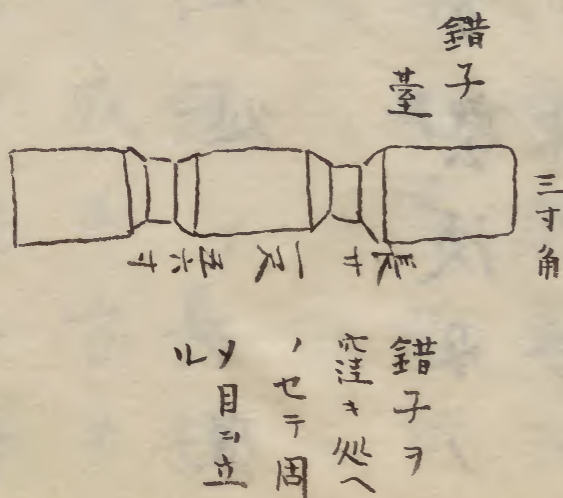
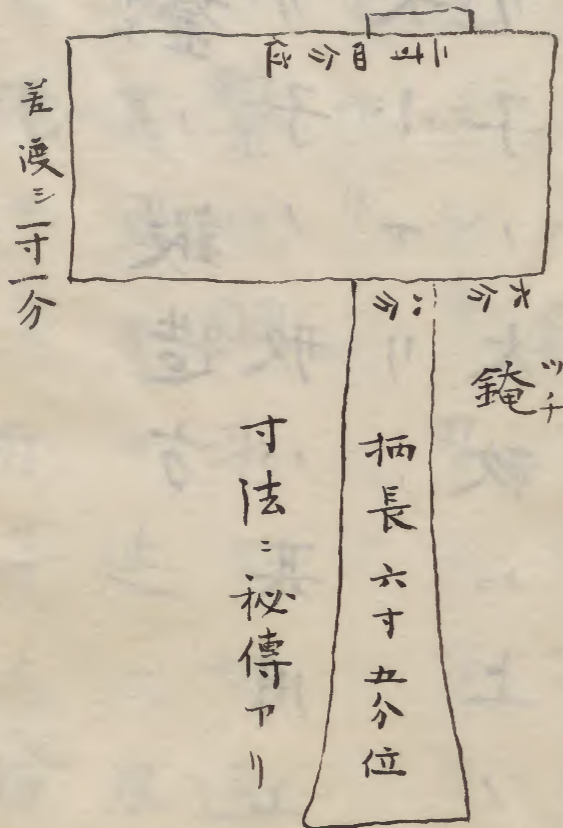
一 始ノ二 三 返折 返シテ 鋼ヲテコ 鉄
 へ 附ル 割合ハ 大方七分三分ノ心
 得ニ 附ル 十リテコ 鍊七分 延鋼三
 分十リ 鋼ヲ多クテコ 鍊ヲ少クス
 レハ 焼上リニ 及リ又 曲リ出ル
 故ニ 七分三分位ノ 割合ニスヘシ
 少シノ 及リハ 出来上リ 遣ヒヨキ
 十リ 折身 出ル
 一月ノ 立方 如 丸
 一 始ノ二 三 返折 返シテ 鋼ヲテコ 鉄
 へ 附ル 割合ハ 大方七分三分ノ心
 得ニ 附ル 十リテコ 鍊七分 延鋼三
 分十リ 鋼ヲ多クテコ 鍊ヲ少クス
 レハ 焼上リニ 及リ又 曲リ出ル
 故ニ 七分三分位ノ 割合ニスヘシ
 少シノ 及リハ 出来上リ 遣ヒヨキ
 十リ 折身 出ル
 一月ノ 立方 如 丸



如此目ヲ四遍切ニ立ル

如右 筋 遠ニ 二 返横 以立ト 合ニ 四 遍
 切ル 十リ 最モ 細ニ タカ子 目ヲ 通
 シ 切ル 此ノ 錯子ヲ 糸目 錯子ト 云
 真 鑰 又 銅ハ 鉄物 錯子ノ 通りニ 三
 返切ニシ 月ヲ 荒ク 大キク 切ル也
 カ 劍ノ 中心 錯子ハ 四 遍 切ル 十リ

斬金ハ始荒砥ニテ磨キ堅キ伊豫砥



一錯子ノ目立鑿完鈍、圖
 切ル十リ
 大鋸ノ錯子ハ木ノ臺ノ上ニセ
 *錯子ハ鑿ノ上ニ目ヲ切ル也
 テ切ル十リ真鍮銅ノ錯子其外細
 ヲ敷テ切ル十リ又銅ノ薄板ヲ敷
 一兩又ノ錯子ハ大ツ、ミノ古ル皮
 一燒上ノ砂摺ノ次第如前文
 類當等ノ錯子目付ルモ是ヲ用ユ

ニテ糸切又ニ磨キ用ユルナリ

鑿^{タカ子}ノ鍛造方

一タカ子ノ形ハ其用ユル処ニ應

シ大小アリ

一タカ子ノ大形ハ上ノ方^熟鑿^熟又ノ

方ヘ鋼ヲ附ル熟鑿鋼ノ鍊リ合ノ

方熟鑿ノ上ヘ鋼ヲ童子木口ヲ除

キ泥ヲ塗リ大ニ入鎔シ鉄ニテ挾

ニ鉄床ノ上ニテ鋼ヲ折返シ熟鑿

ノ木口ニ合スヘシ合ス時手廻シ

遅キ時ハ不付合ナリ次ニ木口ヨ

リ少シホ夫ヨリ藁炭ヲ接口ヘ付

又火ニ入鎔シ四方ヨリ打鍛事三

四返ニシテ又ノ方ヲ平ノ焼又ヲ

付ルナリ

一少キ鑿ハ鋼斗ヲ七返位鍊リ長短

方圓其亘キニ延ベ又ニ成ル方ヲ

鑿ニ鈍^{ツケ}ニテ打平ノ恰好ヲ造リ錯

子ニテ摺リ焼又ヲ薄火ニテ付ル

十リ
 一燒ヨ付方先火ニ入赤ク燒タル時
 水ニ又ノ方ヨリ入テ鍊ヲ上ケル
 濃ク燒過タル時ハ火ヲ返ス也火
 ヲ返スハ水ニ半分程燒タル鍊ヲ
 漬ケ揚ケ置ハ火戻ル也其戻リ加
 減ノ宜キヲ見テ水ニ入戻シ加減
 ノ事目分量ニス大概水ニ入白ク
 成ル処濃キ狐色ニ成ヲ火戻ノ加
 減トス然氏鍊ノ性ニモヨルベシ

一薄火ハ火ヲ不返シテ用ユ火ノ近
 処ニ水ヲ置リヘシ遠キ時ハサノ
 テ不良

一目折錐ハ濃キ火ヲ戻シ用ユ細キ
 目ホハ薄火ヲ用ユヘシ其外タカ
 子ト鍛方同シ

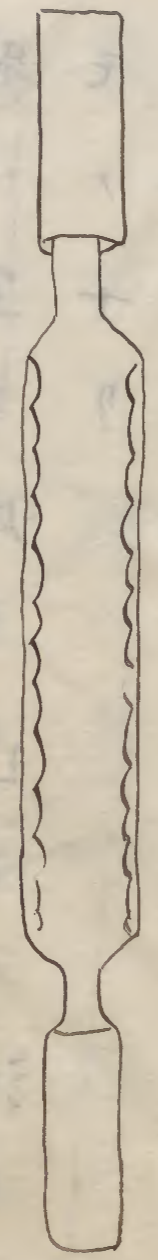
一鍛治ノ用ユル大錠ハ熟鉄ヲ以テ
 恰好ヲ大概ニ造リ五六返モ煉リ
 錠ノ造方

テ鋼ヲ木口へ溶シ付ル也大ユノ
用ユル鈍ハ不煉鋼ニテ造リテ良
シ右鋼ヲ付終テ八角ニ打造リ穴
ヲ明ル事大凡目分量ニ栢ラ差ス
穴ノ太サノ目折ヲ以テ表裏ヨリ
カシキ鎖ノ上ニテ折事數返スレハ中ノ
処ノ鉄一方へ折賣ルナリ其後穴
ノ左右ノフクレアル処々ヲ折直
シ丸ミヲ付鈍ノ恰好ニ造ル次ニ
カケヤキニシ木口ヲ磨ナリ目折

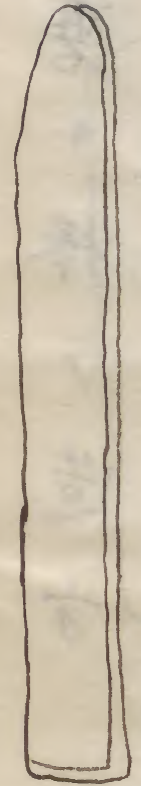
ハ柄ノ太サニ造ル煉方ハ鑿ニ同
シ小キ鈍ハ大凡大鈍ニ同シカケ
焼ニ不及火所ノ傍ニ水ヲ置キ其
水ニ入ル也
一懸焼ノ方拵ヲ煉リ上ケテ火へ入
鎔シ木口鋼ノ処ノ塵芥ヲ能ク錯
子ノ角ニテ削リ落シ火ヨリ出シ
直ニ焼塩ヲ少シ水口へ戴セ塩ノ
解ル時箸ニテ挾ミ畝置タル水ノ
中へ熟鉄ノ方ヨリ漬ケ鋼ノ方ノ

木口ヲ少シ水ヨリ出シ持居レハ
 下ノ水ニ浸タルル処火気廿ノ水ヨ
 リ出タル処ハ赤ク焼居也其時藥
 罐杯ノ物ニ水ヲ入置キ其口ヨリ
 水ヲ懸ルト一度ニ冷ル十リ木口
 三塩ヲ付ハ鉄ヲハセ廿セ且水請
 ノ亘クシテホコリ能クトレル也
 其後木口ヲ磨キ上ル夏十リ
 鐵ノ造方

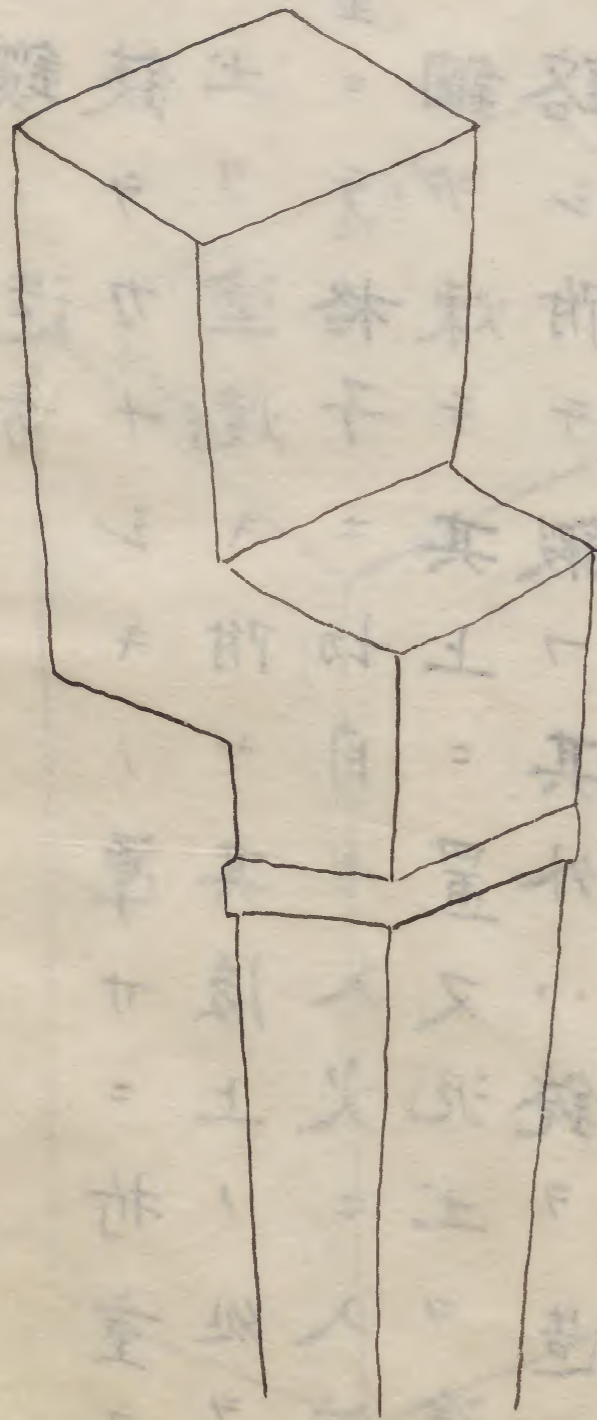
一 小刀ノ如ク鍛ヒ片鋼五六返モ煉
 リ裏鋼表熟鍍十リ熟鍍ヲ多ク鋼
 ハ少ク付ル也



一 キサケハ鋼斗ニテ造ル十リ
 キサケ鍛造方

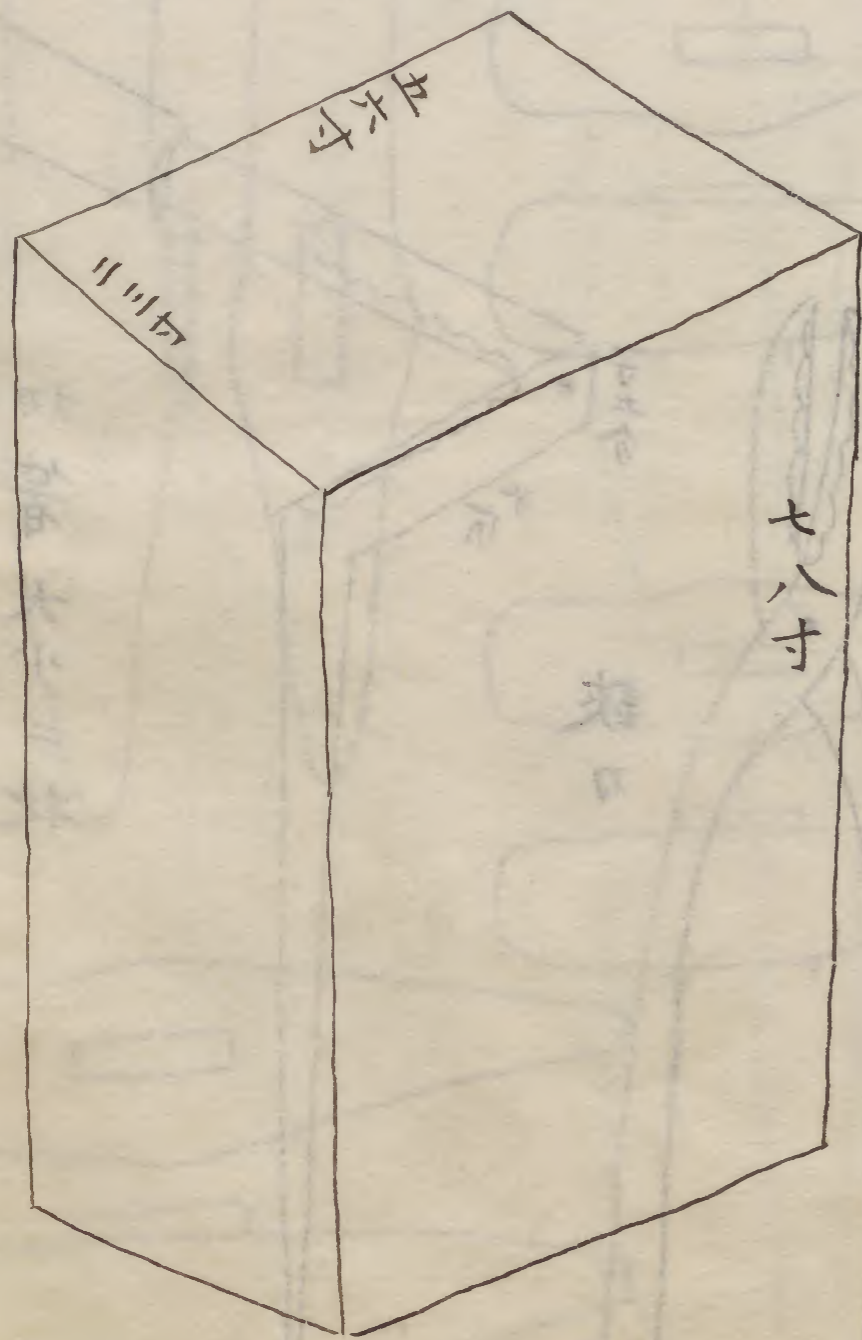


此処及ノ所十リ



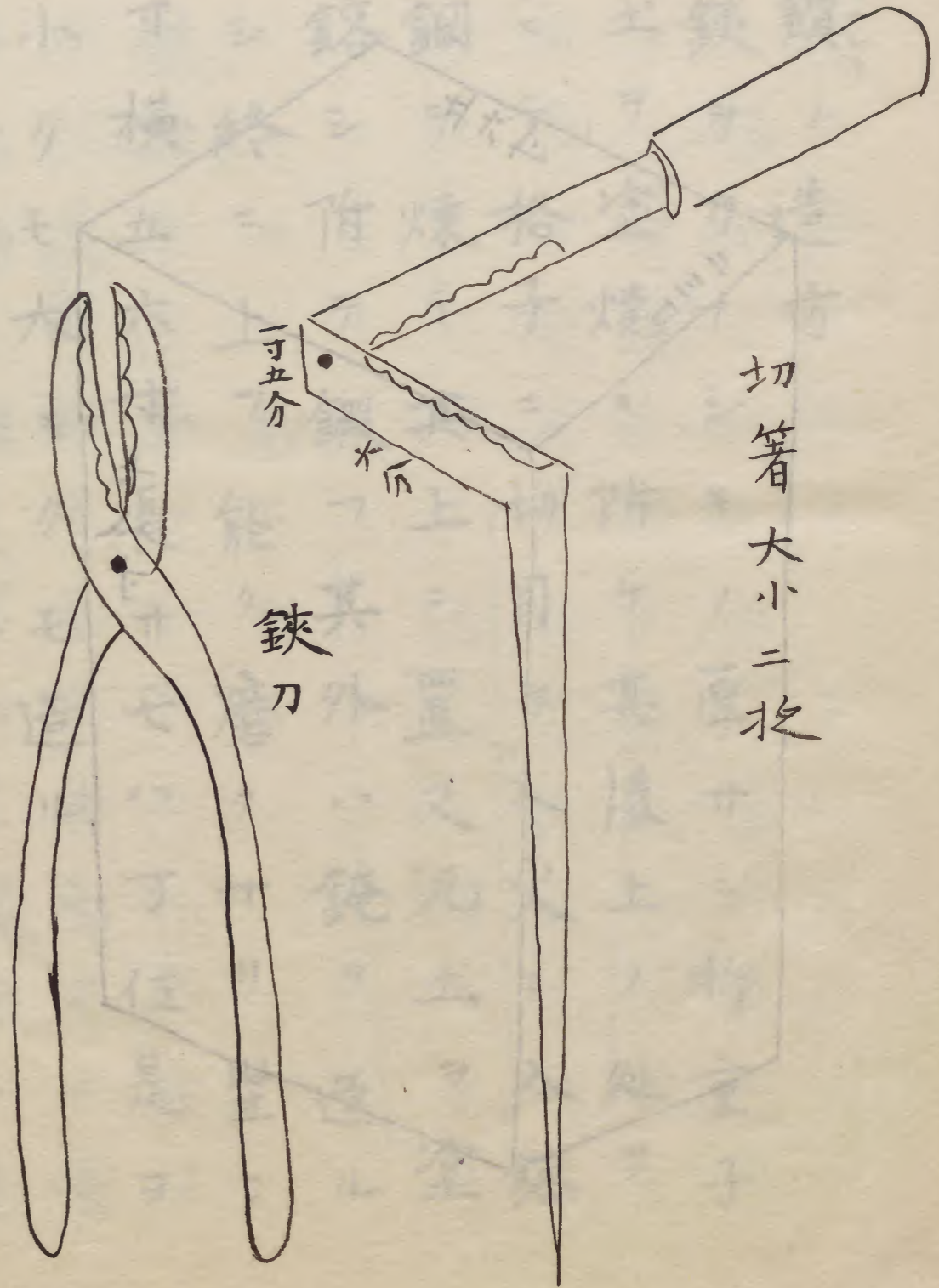
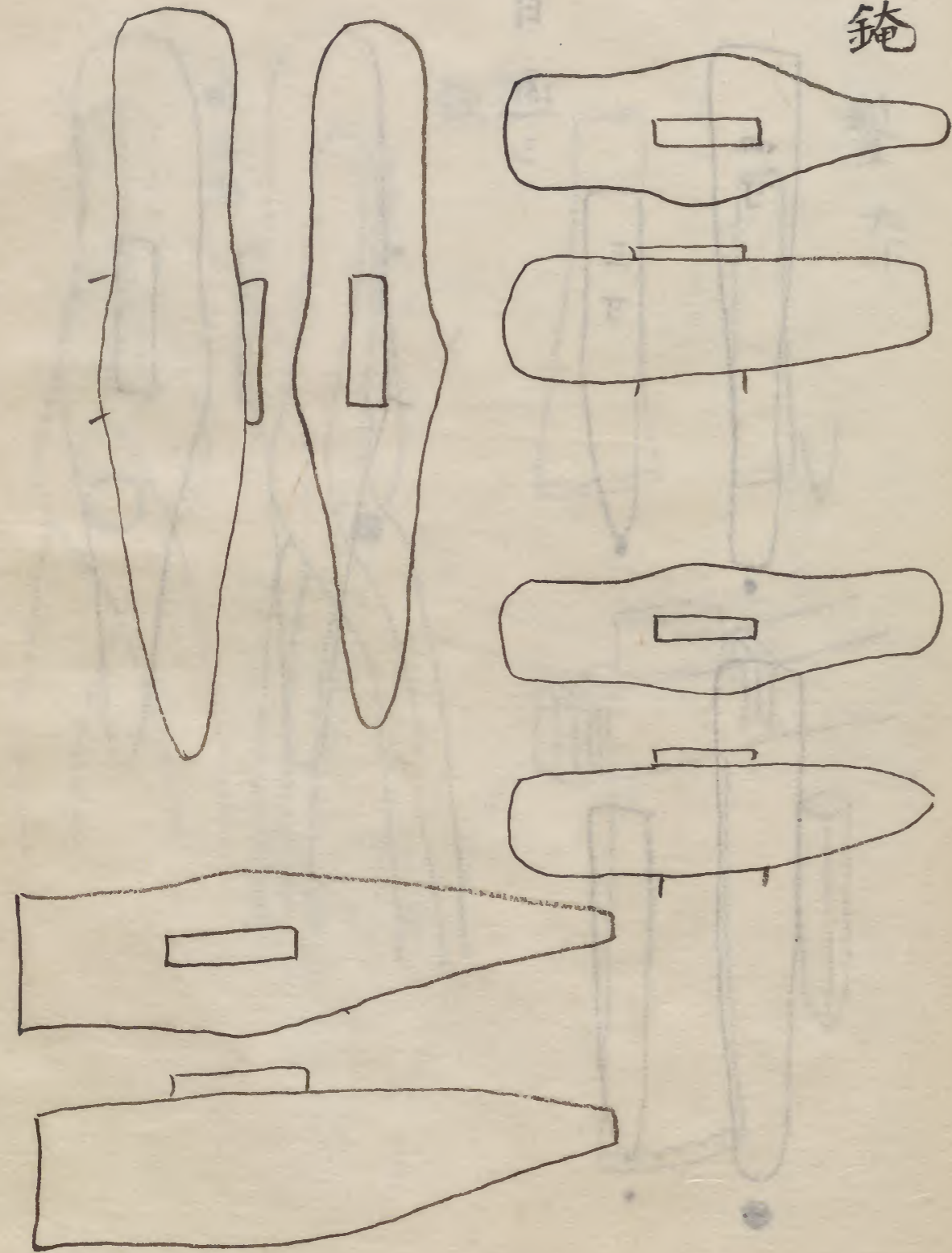
一、如シ細キ鎖ノ事十リ銅或ハ金
 銀ヲ以テ萬物ヲ造リホ込スニ用
 工大概上ノ廣サ一寸ニ五分
 斗ハ大サニ造ル十リ

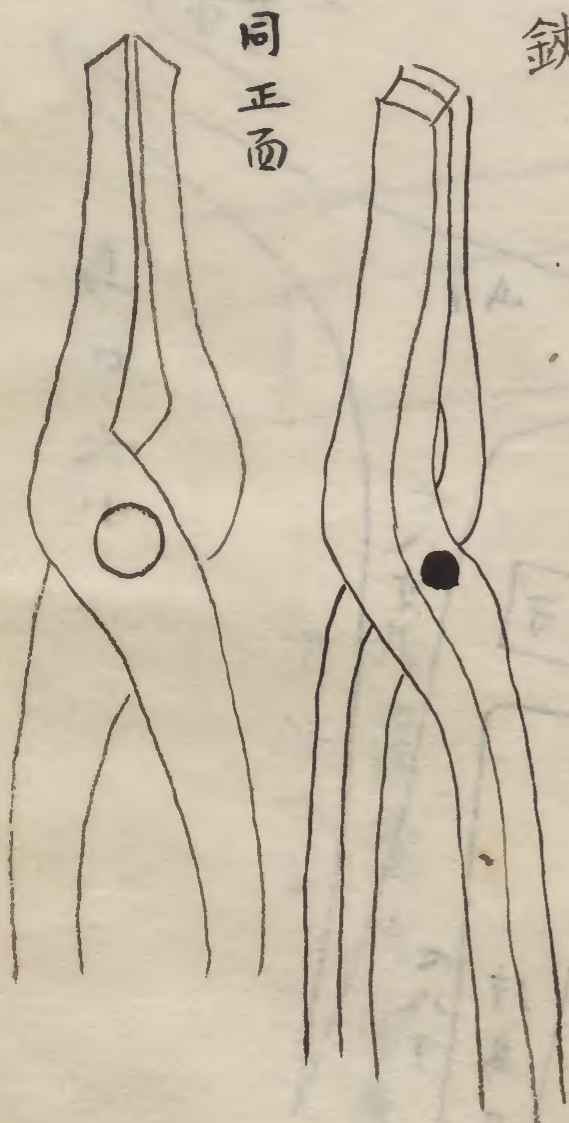
一、磨キ棒ノ造方
 一、刀ノ榎杯ノ如キ処ヲ磨ク具十リ
 一、鍛方ハ七返モ煉リ薄火ニテ焼キ
 一、煉加減ハ陶器ヲ削リ試ルニ削ラ
 一、ル時ハ直シ焼キ過シハ滑リテ不
 一、削モ十リ
 一、鐵砧ノ造方
 一、十ヲシ鉄ハ懸焼ニスル更十リ木
 一、口ハ鋼下ハ熟鍊テ用テ鍛方ハ鈍



一熟 鑊カノレキ 鑊ノ造方
 泥 土ヲ塗燒キ 附ケ其後上ノ処ヲ
 鑿金ニテ格子ニ切目ヲ入火ニ入鎔
 シ鋼ヲ煉テ其上ニ置又泥土ヲ塗
 リ鎔ニ附テ鍛フ其外ニ鑄ヲ造ル
 如シ終ニ上ヲ能ク磨ク十リ堅ニ
 三寸横五六寸長廿七八寸位是ヨ
 リ小クモ大キクモ造ル

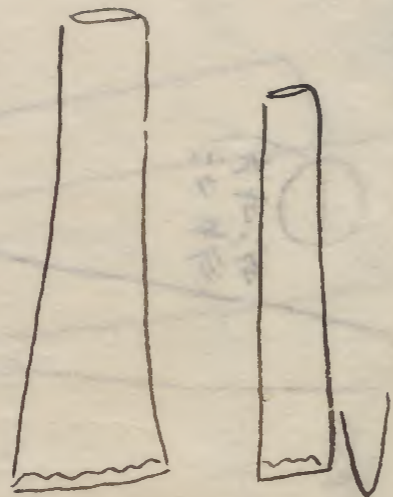
鍬



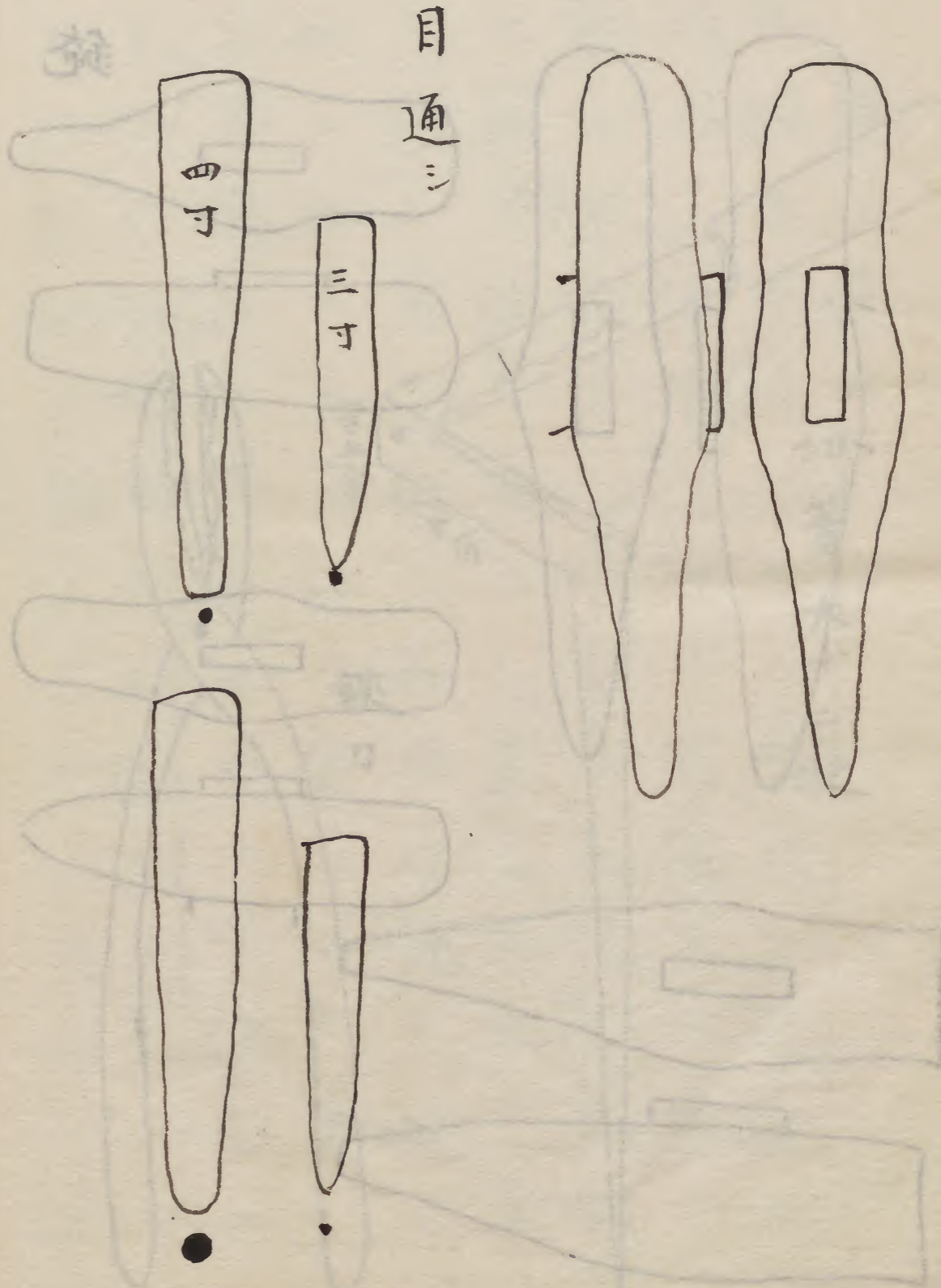
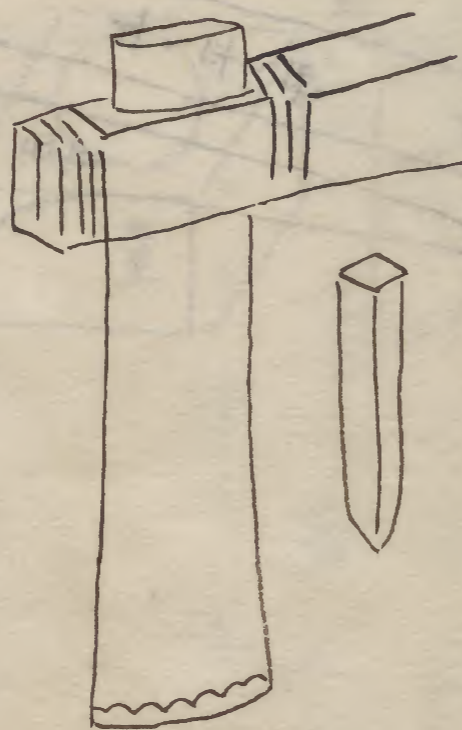


同正面

鉗 カハシ



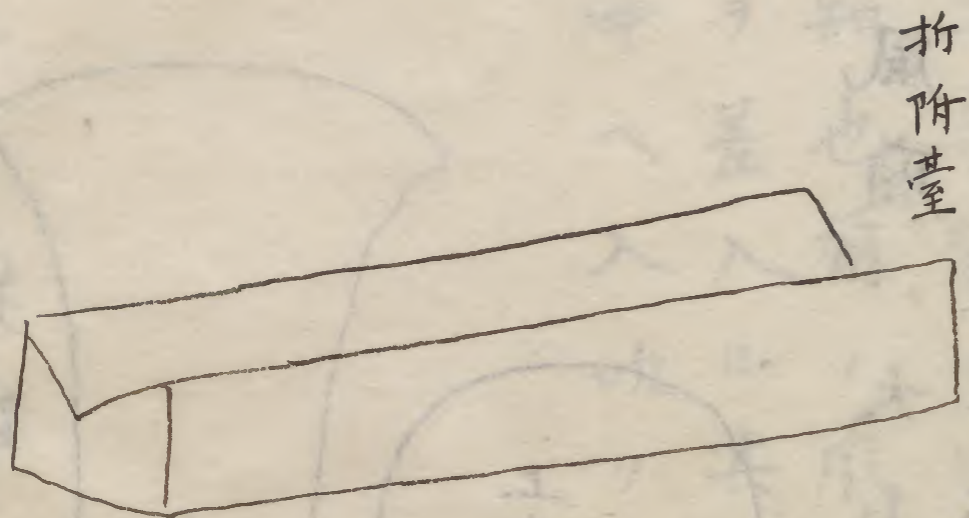
斬金 大小



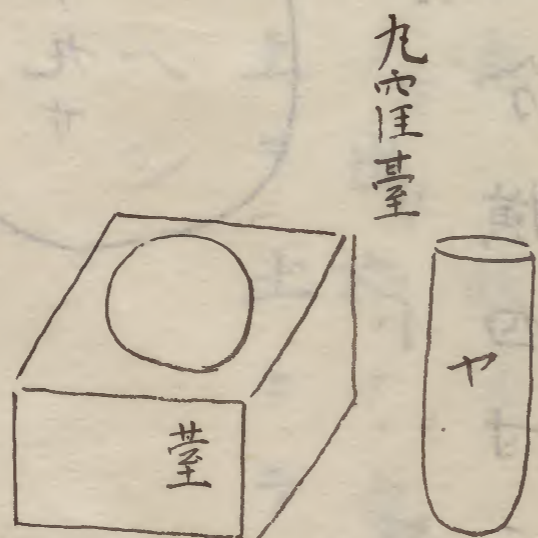
四寸

三寸

目通

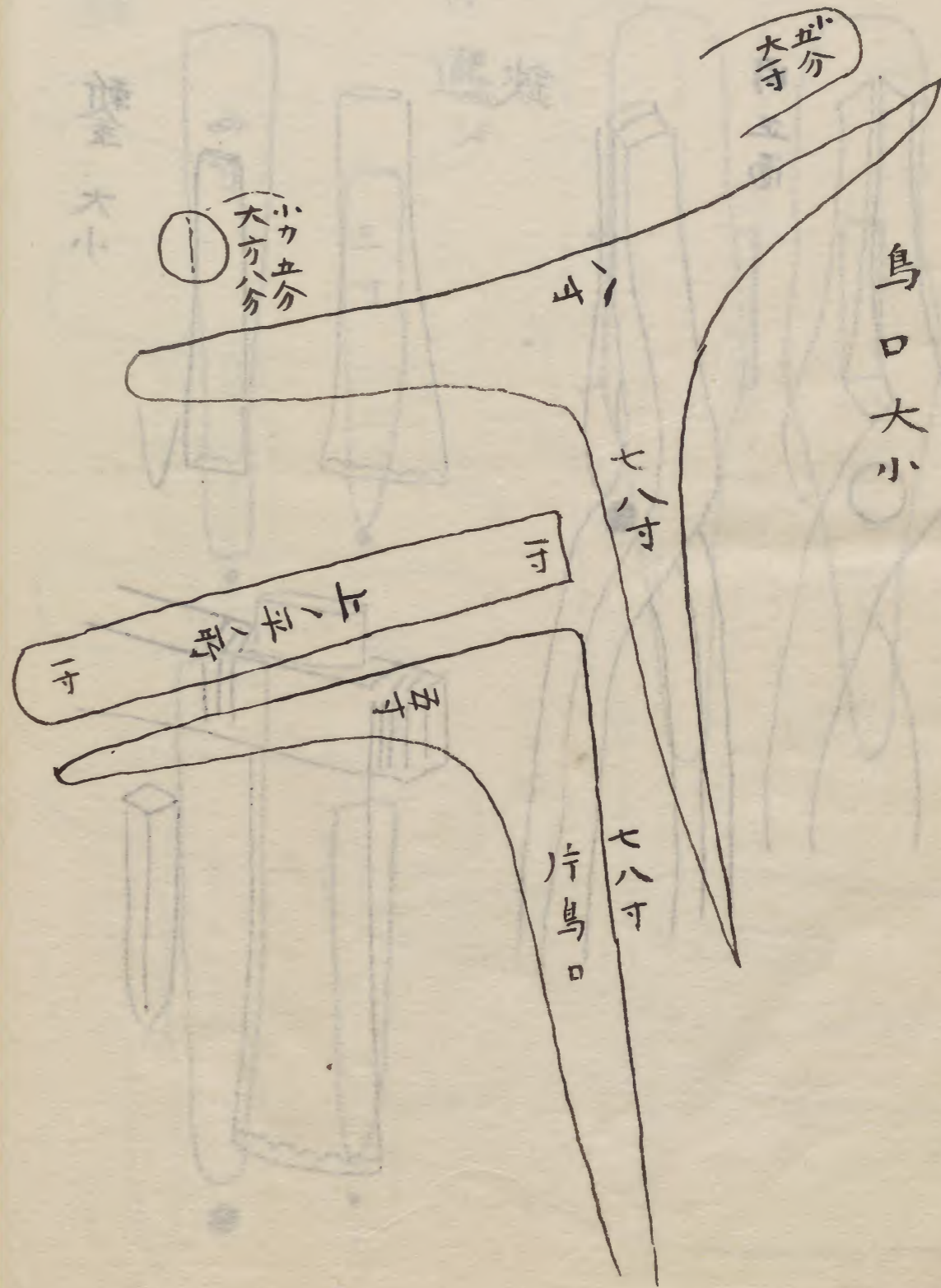


折附臺



丸穴匣臺

丸穴匣臺折附臺共ニ大小
アルヘシ



大寸
小寸五分

鳥口大小

四寸

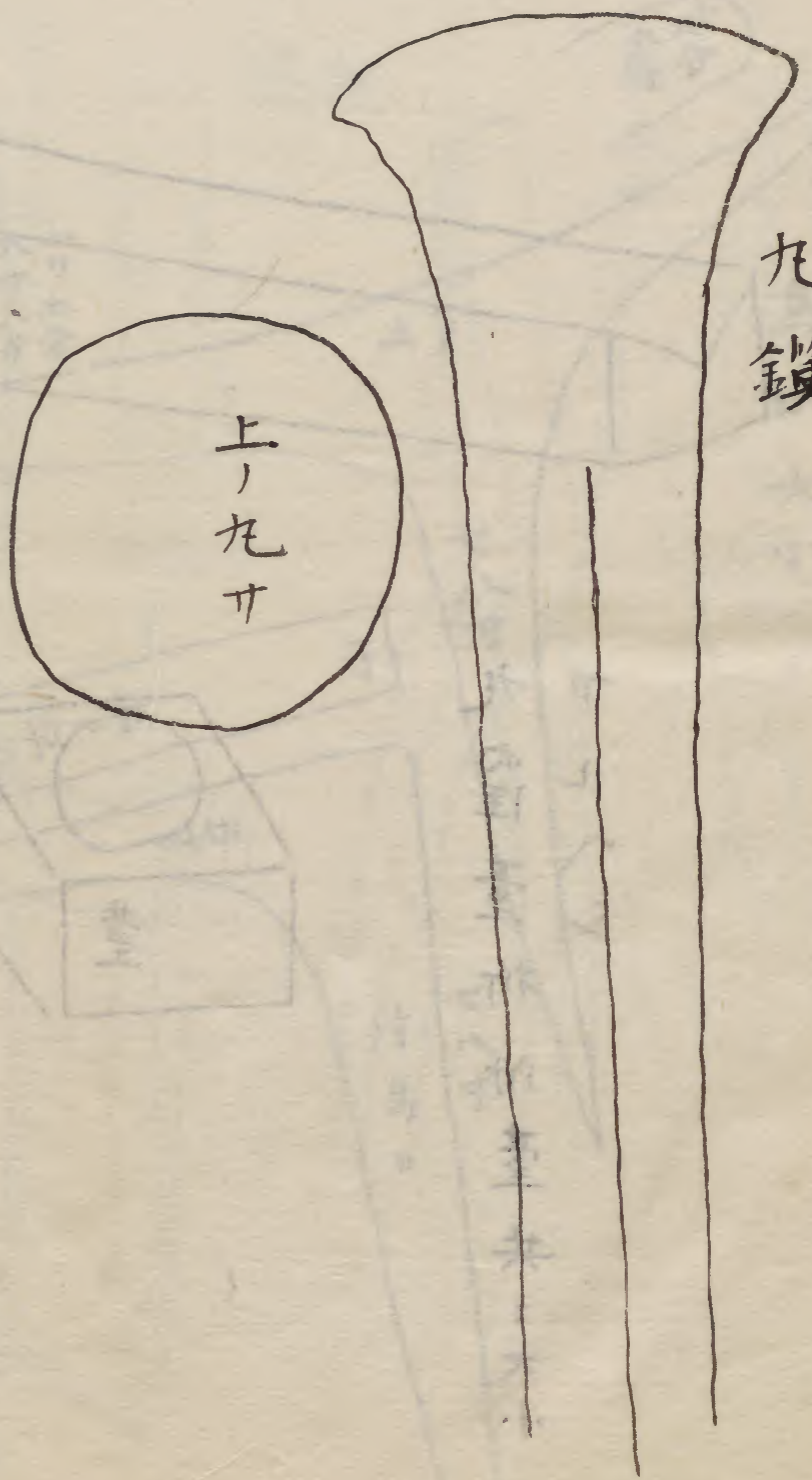
七八寸

①
大寸五分
小寸五分

寸
寸
寸

片鳥口
七八寸

九鎖



一風廂ハ大小アリ小ハ幅一尺八寸
堅立一尺五六分横四寸二分下五寸

二三十分ナリ大ハ一尺寸ノ一倍ト可
知也前ノ風ノ出処ノ穴へ銅ノ管
ヲ差入ル其上ヲ土ニテ塗リ火ノ
中へ入吹クヘシ

止戈樞要盛甲製式卷六終

五丈山... 卷六



Handwritten text in vertical columns, including characters like '中', '其', '金', '火', '庫', '文', '庫', '南', '京'.

